○世界ニ珍奇ナルながえのあかかごたけ（新稱）ノ發見

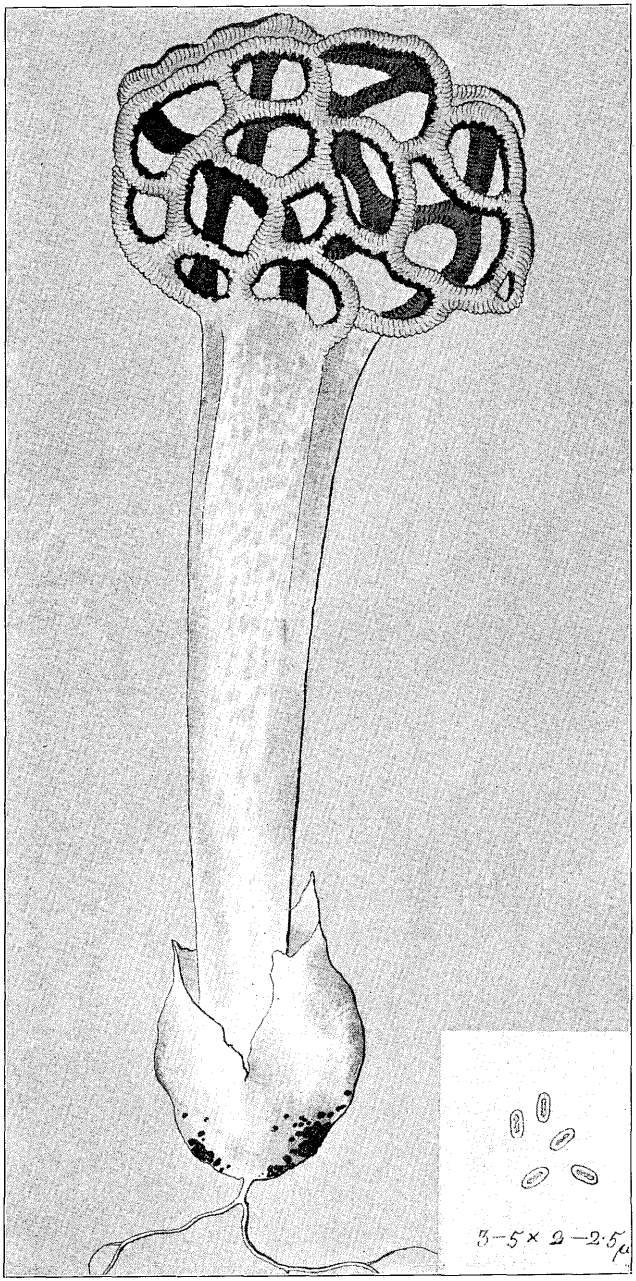
理學博士　川村清一

Clathraceae 科ニ屬スル菌ニハ形態ノ奇異ナルモノガ多ク且ツ某々種ヲ除ク外ハ總テ稀品ニ屬スルモノデアル、彼ノ Clathrus 屬ノ菌ニ就テモ C. cancellatus Tourn. あかかごたけト C. gracilis (Berk.) Schlecht. かごたけノ兩種ガ我邦ニ於テ今日迄各二ヶ所デ採レタノガ知ラレテ居リ殊ニ其後者ハ西洋デハ完全ナ標本ヲ保存シテ居ナイ程デアルガ幸ニシテ我邦ニ於テハ東京市外目黑ニ於テ最初採集シタ以後季節ヲ限ラズ同一場所ニ今モ續イテ發生スル程デアルガ Clathrus 屬ト同樣籠目ヲ現ハセル球狀ノ菌體ハ更ニ莖ヲ有スルノヲ以テ別ノ Simblum 屬トセラルヽ奇菌ハ從來誰カラモ之ヲ採集シタ報ニ接シナカッタ

然ル處昭和五年七月三十日、滿洲安東大和小學校ノ藤田謹次氏ガ大連市外星ケ浦公園ニ於テ萩ノ根元地上腐植土中ニ生ジ居タル一ツノ奇菌ヲ採リ之ガ鑑定ヲ予ニ請ハレタノヲ見ルト夫レハ Simblum 屬ノ然モ未ダ世ニ知ラレテ居ナイモノデアルコトガ判ッタノデ之ニ Simblum clathroides ナル新學名ヲ與ヘながえのあかかごたけナル新和名ヲ與ヘル事ニシタ、蓋シ本菌ガ長キ莖ノ上端ニ戴ケル頭部ガ籠ノ如ク相連絡シテ網目ヲ造レル淡紅色ノ格子ガ球狀ニ膨レテあかかごたけヲ連想セシムルモノデアルカラ斯ク名ケタノデアル

第一ノ圖（次頁）ハ藤田氏ガ本菌採集後直ニ彩色圖ニ寫生サレタモノデ傍ノ胞子ノ圖ハ予ガ顯微鏡下ニ寫シタモノデアル、次ニ本菌ノ形狀ニ就テ記セバ

頭、莖部ヲ通ジテ全長 18 cm.、頭部ハ略五角形ノ網目ヲ造ッテ相連絡セル格子カラ成リ淡紅色デ蛭ノ樣ニ細カナ横皺ガアリ其質脆ク裏面ニ胞子ヲ含ム褐色ナル粘液ヲ附着シ臭氣ガアル、胞子ハ楕圓形デ大サ 3-5×2-2.5μ 鏡下ニハ淡綠色ニ見エル、頭部全體ノ形ハ稍壓セラレタ球形ヲシテ横徑約 6 cm. 高サ 4 cm. 格子ノ徑ハ

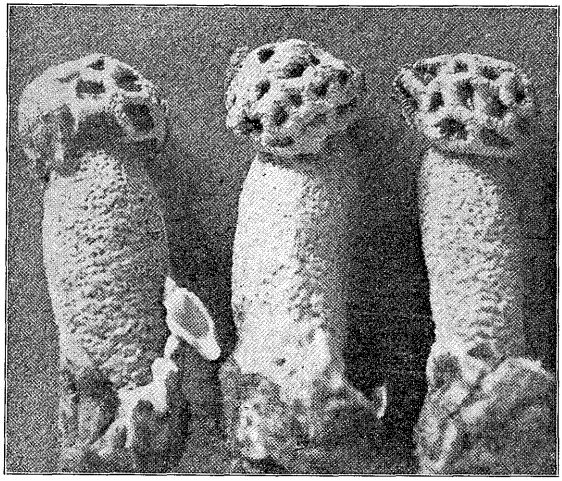


ながえのあかかごたけ (Simblum clathroides KAWAMURA)

昭和五年七月三十日滿洲大連郊外星ケ浦公園ニテ藤田謹次氏採集并ニ寫生(前圖ハ著者撮)

3–4 mm デアル、莖ハ長サ 14 cm. 上端ノ徑 2.5 cm. 下方ニ向ッテ少シク尖ッテヰル、莖ノ上部ノ横斷面ハ稍

世界ニ珍奇ナルながえのあかかごたけノ發見

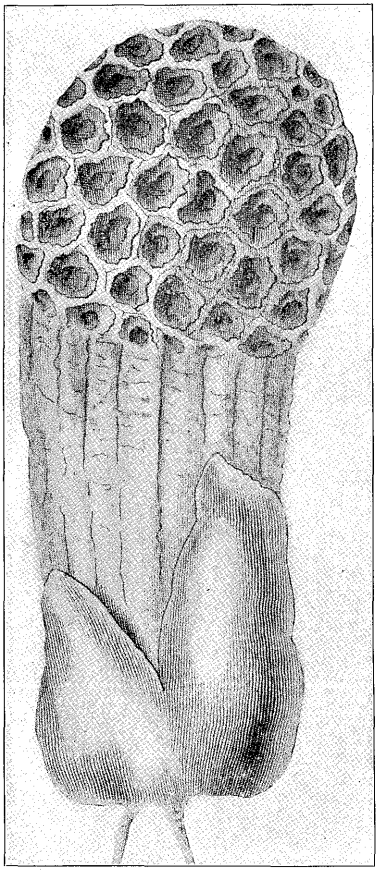


Simblum sphaerocephalum SCHLECHT.
(C. G. LLOYD, Mycological Writing, vol. III. p. 65.)

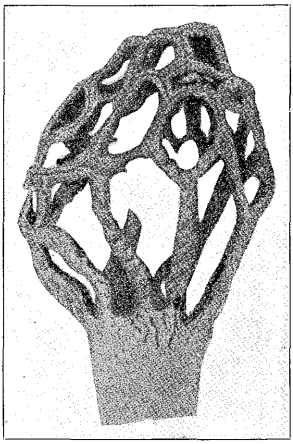
菱形デアルガ下部ハ漸次圓筒狀トナリ、下部ノ徑 1.5 cm. デアル、莖ノ質ハ Phallus 屬ヤ Mutinus 屬等ノ諸菌ニ於ケルモノヽ如クデ且中空デアル、脚苞モ亦是等ノ諸菌ノモノヽ如ク薄クテ軟質、椀狀、白色デアル

扨 Simblum 屬ノ菌ハ今日迄世界ニ僅カニ數種シカ知ラレテ居ナイ、其中比較的能ク知ラレテキルモノハ黃色ナ S. periphragmoides KLOTZSCH. ト紅色ヲ帶ビテキル S. sphaerocephalum SCHLECHT. トデアッテ前者ハ約百年程前ニ、南印度洋中マウリチュース島デ初メテ發見サレタ後、支那東京・爪哇・セイロン島・印度等デ採レ、後者ハ南北亞米利加ニ產スルモノデアル、此外ニ黃色ナ S. gracile BERK. ナルモノガ爪哇・セイロン島・印度等ニ產シ、支那デモ採レタコトガアリ、又同ジク黃色ナ S. texense ATK. ET LONG. ハ北米テキサス州ニ產スルモノデアル、然シテ是等ハ何レモ圓筒形ナル莖ノ上端ニ球狀ノ頭部ヲ戴キ其頭部ハ籠狀ノ格子カラナリ、網目ヲ造ッテキルガ頭部全體ガ引締マッテキル構造ノモノデ頭部ノ徑ガ莖ノ徑ニ比シ稍大キイモノデアルガ、大連產ノ本菌ハ其頭部ガ竹籠ノ樣ニ膨レテ內ハ大キクガランドウニナッテキルカラ頭部ノ形ハ却ッテ別屬ノあかかごたけ (Clathrus cancellatus [TOURN.] FR.) ニ酷似シテキル

尙適切ニ比較スベキモノヲ求ムルナラバ今カラ約七十年ノ昔濠洲スワンリバーデ發見サレ BERKLEY ガ寫生圖ヲ

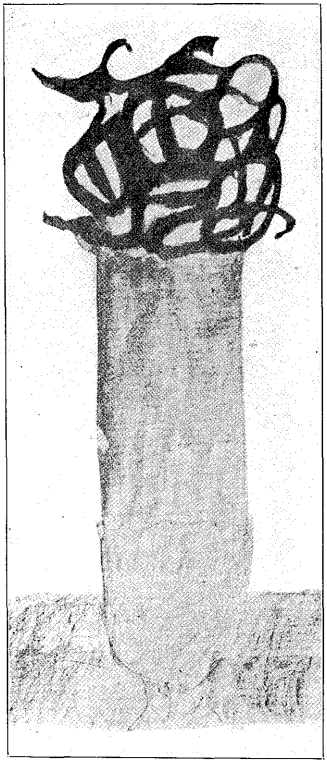


Simblum periphragmoides KLOTZSCH.
(C. G. LLOYD, Mycological Writing, vol. III. p. 64.)



Simblum Mülleri (C.G. LLOYD, Mycological Writing, vol. III. p. 64.)

殘シテキル Clathrus pusillus BERK. ニ能ク似テキルガ夫レニハ全然莖ガ無クテ Clathrus 屬ノモノデアル、本菌ト同屬 Simblum ノモノデ頭部ガ比較的大キク膨クレ且網目ガ粗大デアルモノトシテハ曾テ濠洲デ發見サレタコトガアッテ乾燥標本カラ描イタ圖ノミガ世ニ傳ハッテキル所ノ S. Mülleri ト、昔亞弗利加ニ採レ極メテ粗末ナ「スケッチ」ノミガ傳ハッテキル所ノ S. clathratum ナルモノガアルガ此前者ハ頭部ニ於ケル網目ノ中、莖部ニ接スルモノガ特ニ大キクテ、且上方ノ二邊ガ稍短カイ西洋凧形ノ四邊形ヲシテキル特徴ガアッテ本菌ト異ッテキル許リデナク、莖ハアルケレドモ甚ダ短カイモノデ本菌トハ全然別種デアルコトハ明カデアル、又 S. clathratum ト云フ方ノモノハ粗末ナ「スケッチ」ガ示サレテキル許リデ果シテ其菌ノ正確ナ形狀ガ本菌ノモノニ合致スルカ否カハ想像スルコトモ難クテ唯單ニ「スケッチ」ニ現ハレテキル形態ニ據テ彼我兩菌ヲ比較シテ見ルト之



Simblum clathratum
(C. G. Lloyd, Mycological Writing, vol. III. p. 66.)

ヲ同一種トスルコトハ出來ナイノデアル、ソコデ私ハ本菌ヲ新種ト判定シテ新ニ Simblum clathroides ナル學名ヲ與ヘルコトニシタ次第デアル

○植物標本鑑定ノ態度

蕾 軒 生

人ガ植物標本ヲ作ルノハ色々ノ動機、趣味ニ基クノデ敢テ他人ガ之ニ容喙スル必要ハナイガ、モシソレガ學術研究ヲ目的トスルモノデアルトシタナラバ出來ルダケ立派ニ又出來ルダケ完全ナモノヲ作ルト云フコトハ申ス迄モナイコトデアル、小生ハ近年諸方カラ地衣ノ標本ヲ送ラレテ其御返事ニ忙殺サレテ居ルガ中ニハ理想的ノ標本ニ接シ餘事ヲ放擲シテモ其檢査ニ取懸ルヤウナコトモアルガ中ニハ貧弱不完全デ包ヲ開クノサヘ憂欝ヲ感ズルヤウナ品ニ遭遇スルコトモ甚ダ多イ、凡ソ人ニ鑑定ヲ依賴スル以上ハ採集者自ラガ其植物ヲ知ラウト欲求シテ居ルモノト言ハネバナラナイ、然ラバ自分ニモヨク分ルヤウナ良キ標本ヲ作ル必要ガアル、又鑑定者ハ居ナガラ遠隔ノ地方ノ產物ヲ知ルノデ喜デ其求メニ應ジテ居ルト同時ニ送ラレタ標本ガ役ニ立ツモノデナケレバ徒ニ時間ヲツブスノ愚ヲ演ズルコトニナル、況ヤ會〻其標本ガ珍品デアッテ更ニ研究ヲ要スルモノデアッタナラバ其專門家ニ送ル必要モ生ズルノデ斷片的ノ不完全品デハ如何トモスルコトガ出來ナイコトニナル、中ニハ無暗ニ種類ヲ貪ル結果矢鱈ト多數ノ標本ヲ送ラル、向モアル、モシソレガ或地方ノ「フローラ」ヲ調ベル必要上ノコトデアルナラバ先ヅ已ヲ得ナイトシテモソレハ箇人デハ滅多ニ